

エリア整備 市役所北側の街区(「市役所北エリア」と呼ぶ。)を対象とする。

○街区全体

- ・ 今後造るものにエコセメント製品を使用
- ・ タクシー乗り場の併設など交通の利便性向上
- ・ トイレになるベンチ
- ・ ラボック市から贈られた風車をどこかに活かしてほしい。
- ・ 歩道の拡幅
- ・ 駐車場の増設
- ・ 自主防災組織が24時間体制で利用できる防災拠点の設置(耐震性・耐火性のある防災倉庫と集会場所)

①緑町コミュニティセンター

- ・ エレベーターをつけてほしい。
- ・ 車止めの設置
- ・ コミセンの駐輪場はテニスコートの利用者でいっぱい。
- ・ コミセンを広げることに賛成だが、場所の移動は望まない。
- ・ 現施設敷地内でのコミュニティセンターの建設
- ・ 緑町コミセンに会議室が足りない。
- ・ コミセンの建物を南側に6m増築する。(エレベーターを設置、倉庫、調理室の付属室、小会議室が設置できる。災害時の避難通路ができる。)
- ・ 入口付近に掲示板が多すぎる。町会、コミセン以外の掲示版はグリーンセンターに移動できないか。
- ・ コミセンからテニスコート側に避難するルートが不十分。

②テニスコート・野球場

- ・ テニスコートを都営住宅跡地に移して、コミセン周辺の環境を良くしてほしい。
- ・ 野球場・テニスコートの場所を四季の花を鑑賞できる公園にし、公園内の歩道は、車いすでも通れる余裕を持った道幅とし、武蔵野市の新名所とする。
- ・ スカットコート
- ・ 屋内スポーツの練習場(バドミントン、卓球など)や駐車場を緑町コミセンの南側のテニスコートや休憩スペースを様々な活動ができるようなスペースとしてほしい。
- ・ 野球場や現テニスコートの地下を駐車場やストックヤードなどとして利用。
- ・ 野球場地下 防災倉庫設置、防災拠点化
- ・ 野球場のイベント開放、子どもたちの遊び場として開放
- ・ テニスコートの休憩コーナーはあまり利用されていないので、有効活用できないか。
- ・ パークタウンの中は、各地域への導線がうまく確保されていることにも、あらためて発見した。テニスコートや野球場なども、導線を基に考える必要がある。
- ・ 防災上は、野球場やテニスコートの場所は市役所から近く、広いスペースを確保していくことは大切だと思うが、植物園のようなイメージで色々な種類の植物が楽しめるようになれば素敵だと思う。

③グリーンセンター(エコプラザ)とテニスコートの間

- ・ コミセンとエコプラザとの間のテニスコートの一部にテニスのクラブハウスを設置し、共有スペースを増やし、連携しやすくなる。(クラブハウスは、テニスコート、野球場への玄関口として、利用者の駐輪スペース、機材搬入用の車寄せスペースを設けて、緑町コミセン利用者、エコプラザ利用者と相互利用する。クラブハウスと緑町コミセン及びエコプラザとを共有スペースで繋げて、双方への行き来がスムーズにできるようにする。全ての共有スペースには、バリアフリー、ユニバーサルデザインを取り入れる。これにより、公園で遊ぶ子ども、テニスコートで汗を流す市民、エコプラザで活動する市民、緑町コミセンで活動する市民の間の物理的な障害を取り除く。相互利用が活発化する。これに用いた分のテニスコートは、市内の他のエリアで確保する。)
- ・ グリーンセンターとコミセン間の緑地帯の一部を車寄せ、駐輪場を設置する。

④市道第41号線

- ・ イチョウ並木の落ち葉清掃が大変。別の樹木に変えられないか。

⑤緑町コミュニティセンターと緑町ふれあい広場のつながり

- ・ 緑町コミセンと緑町ふれあい広場のつながりの強化(コミセンから子どもが遊ぶ公園に眼が行き渡るようにする)

⑥グリーンセンター外構

- ・ センターの周りに花の回廊を作ってほしい。緑のスペースの充実、まわりにお花を飾ってほしい。まわりに植物や花を植えてほしい。
- ・ アカマツ、ヒマラヤスギは保全、保存すべきだ。
- ・ グリーンセンターの周りは歩きやすい、そんな歩道
- ・ グリーンセンターの周りは歩きやすい明るい歩道を。

⑦エコプラザ

- ・ エコプラザに多目的ホールを設置して、大、中の部屋使用可能な設備を希望。
- ・ 足湯を設置してほしい。

⑧遊歩道の整備

- ・ 市役所側から北側に抜けられる遊歩道の設置

⑨グリーンセンターと市役所の一体化

- ・ グリーンセンターと市役所を含んで、一体的にイベントができるスペースを創出する。



周辺整備

①環境共生都市

- 市役所北エリアと緑町三丁目（NTT含む）一帯を、環境共生型の都市生活を実現するシンボルゾーンと位置付けて、それにふさわしい施設・まちづくりを行う。

②新工場棟エネルギーの活用

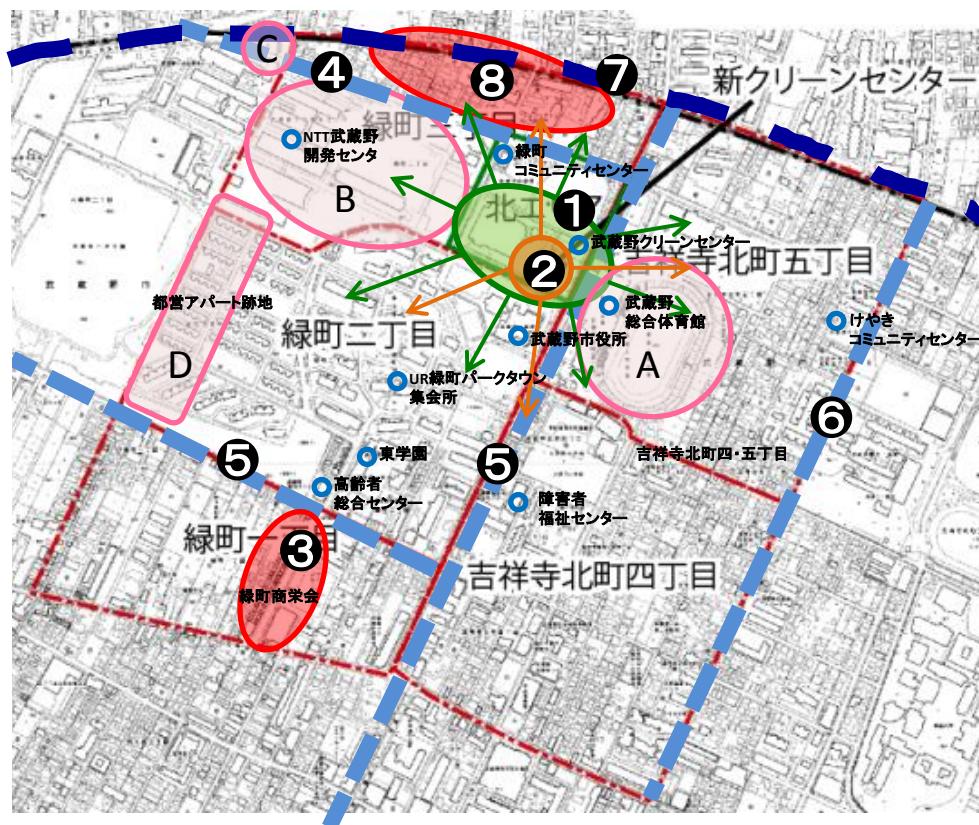
- 新施設の周辺にある市役所、障害者総合センター、NTT研究所、保育園といった施設が立地する地域特性と、発電や余熱利用などの新施設が生み出す機能を組み合わせることで、単なる焼却施設にとどまらない付加価値を生み出す。
- 発電を利用した電気自動車のエネルギーステーションを設置し、公用車やムーブスを電気自動車として運行する。
- 街路灯を太陽エネルギーやクリーンセンターの発電により生み出された電気を利用したものとする。
- 電気自動車の貸し出し（荷物を運ぶ、障がい者、高齢者の送迎など）。
- EVカーシェア
- エネルギーを効率よく供給する仕組み（スマートグリッド・スマートコミュニティ）の実証実験
- 住宅に「省エネ見える化装置（スマートメーター）」を試験導入

③防災・安全安心

- 市とNTT、URなどの事業者、自主防災組織との災害時の相互利用協定。
- クリーンセンター周辺は市役所、NTT研究センター、中央公園、パークタウン一帯が広域避難場所である。
- 防災センターを中心に災害時に拠点となる。
- 防災センター、NTT研究センターとの連携。
- 複数の防災上重要な施設が地域に存在するため、それぞれに連携が重要。
- 市道41号線から広域避難場所である中央公園への避難ルートの新設。
- 地域の危険個所の確認、夜間のウォッチングの開催。

④近隣施設の相互活用

- コミセンだけでは不足している会議室を、他の施設の会議室の使い勝手を改善することで保管しあう。（体育館、高齢者センター、市役所、パークタウン集会所、東学園など）
- 駐車場の相互利用調整により、新たなオープンスペースを生み出す。
- 市とNTT、URなどの事業者、自主防災組織との災害時の相互利用協定。



⑤交通ネットワーク

- 施設利用を高めるためのムーブスネットワークの改良
- タクシー乗り場の併設など交通の利便性向上
- バスルート見直し+横方向ルート（市道240号線バスルートの市役所側への延伸）
- 歩道を自転車を通らないようにする標識、表示（歩道塩析に標識設置、歩道状に文字・絵で表示）
- 自転車専用レーンの整備（中央通り、市道41号線、北エリア周辺道路、商店街周辺道路）
- 新クリーンセンターにも車が多く来ると思うが、そのためにも道が確保されるとよい。

⑥商店街への車両制限

- 緑町商栄会前道路への大型車両の進入制限・速度制限

⑦市道第41号線

- 防災避難経路として重要な市道41号線の電線類地中化、バリアフリー化、歩道設置
- 自転車専用道をつくれぬか。
- つつじの植え込みをなくして、歩道の幅を広げてほしい。

⑧市道第17号線・55号線

- 市道17号線、55号線は災害時の物資輸送経路となることも踏まえ、電線類の地中化と街路樹（桜の老木）の植え替えを一日も早く行うべきである。

⑨扶桑通り

- 扶桑通りには、住宅が密集しており、小学校があり、市内でも交通事故が多い、もっとも危険な場所。車と人が分かれたまちづくりができないか。
- 成蹊学園の万年塀を生け垣にできないか。

⑩千川上水

- 千川上水沿いの都市計画委道路整備の在り方の検討とともに、遊歩道の整備や緑の管理について検討を行う。
- 親水空間が整備されるとよい。

A 武蔵野総合体育館

- 運動場の剪定枝葉を新施設で堆肥化し緑地に還元
- 体育館や保健センターの健康プログラムに足湯を組み込む。

B NTT武蔵野研究開発センター

- NTT研究所のIT技術を利用する。
- NTT技術資料室の常時一般開放、エコプラザとの連携。
- 技術資料館との連携だけでなく、NTT研究所全体との連携が必要。空間的な魅力を高めるために連携することが非常に重要。
- NTTの間に道路を通すことも有効かと考える。防災の関係でも、北高校や千川小学校が防災倉庫となっているが、そこへの動線を考えても、道路があるとよい。

C 資材置き場

- 市の資材置き場を撤去し、公園として整備する。

D 都営住宅跡地

- 都営住宅未利用地（3000坪）の活用（緑町コミセンの分館、集会施設、ホール等公共施設、北エリア内のテニスコートのとっかエコ）
- 「周辺」の中に、都営住宅の未利用地を入れてほしい。
- 緑を残すのもよいのだが、その上で住民還元として公共施設を建ててほしい。
- 少なくとも民間売却はして欲しくない。
- 中島飛行機の変電所建物の保存。

⑪空き家

- 空き家の活用により、コミュニティを再生する仕掛けとして、若い人が地域に暮らし、仕事ができる場とする。

⑫建物の保全

- 緑町3丁目の邸宅など、保存していきたいと感じた。